久見崎盆踊（想夫恋）

【所　在　地】薩摩川内市久見崎町（久見崎盆踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 46 年５月 31 日

久見崎盆踊「想夫恋」

川内川の川口左岸に位置する久見崎地区に古くから伝えられた盆踊りである。慶長２（1597）年，慶長の役に出兵した薩摩軍は，ここ久見崎港から船出したと伝えられるが，朝鮮で戦死して帰らぬ夫や子らを国もとに残った女性たちが供養するために踊ったのがこの踊りとされる。

現在は，久見崎の婦人会を中心とした保存会が継承している。旧暦７月 14 日（現在は新暦８月 16 日），御高祖頭巾をかぶり，男ものの羽織を着て，腰に脇ざしを落しざしにして，三味線と太鼓に合わせて踊る。七七七五調の歌につれて円陣をつくり，合掌したり遠くを招くような仕草をくり返す，ゆっくりとしたテンポの素朴な踊りで上品で何ともいえない味わいがある。

〈参考〉

●想夫恋の歌詞

御高祖頭巾に腰巻羽織，亡夫も見て賜れ　眉の露
切って供えた　みどりの髪は　今日の逢瀬を　待てばこそ
盆の十四日　踊らぬ人は　目蓮尊者の　掟にそむく